

共育の丘だより 第7号 2017春

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はぐくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

山口大学 大学教育機構 大学教育センターは、「教育活動評価及び授業改善の企画等をより具体的、実践的に行うために大学教育の企画・実施を行い、もって本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的」（山口大学大学教育センター規則第2条）として設置されたものです。大学教育センターではその目的に沿ってFD・SDの企画・実施をはじめ、様々な取組を行っています。

その一つに YU-AP があります。これは文部科学省の平成26年度大学教育再生加速プログラムに本学が採択されたもので、今年度で4年目を迎えます。その間、共通教育を中心にアクティブ・ラーニングを推進し、学修成果の可視化に取り組んできました。これまでの取組が、本学の教育理念「驚き、個性、出会い、夢を発見し・はぐくみ・かたちにする」人材の育成に寄与しているのか、改めて点検し、今後活かしていくことが求められます。

一方、昨年度末には全学的にディプロマ・ポリシーなど3つのポリシーが更新され、共通教育では今年度から英語のカリキュラムが大幅に変更になり、TOEICスコアによる単位認定制度は廃止され、必修単位数は6単位から8単位になりました。（共同獣医学部と国際総合科学部を除く。）これらを踏まえ、現行のカリキュラムについて検証を進めていくことも大きな課題のように思います。

（菊政 勲 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3-4 学生FDサミット2017春
- P5 サミット協力校の感想（1）
- P6 サミット協力校の感想（2）
&宮島交流会参加レポート
- P7 島根県・江津地区訪問レポート
&やまぐち探訪記
- P8 編集後記

【※本ニュースレターは、（公財）山口大学後援財団「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

大学教育センターの動き

FD・SDとは？

はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

「国際シンポジウム2017」を開催！

平成29年3月14日(火)、YIC Studio2階講堂にて、山口大学・大学教育再生加速プログラム「国際シンポジウム2017～Creating the Future of Faculty Development Across the Border～」が行われ、学内外から教職員・学生など計60名が参加しました。本シンポジウムでは、文部科学省・大学教育再生加速プログラム事業の3年目の成果発信とともに、日米のFDの過去・現在・未来を取り上げ、今後の事業展開に活かすことを目的に開催されました。

冒頭、福田 隆真理事・副学長(教育学生担当)より開会挨拶があり、基調講演1では、河本 達毅 文部科学省高等教育局大学振興課 大学改革推進室 改革支援第二係長より「高大接続改革と大学教育再生加速プログラム」と題し、高大接続改革と大学教育再生加速プログラムの背景と目的、現状の課題等が説明されました。続く基調講演2では、沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構教授より「FDの過去、現在、未来 ～私たちは何をきて、どこに向かっているのか?～」と題し、諸外国との比較を交えながら、日本の高等教育の文脈におけるFDの課題や将来展望が述べられました。次に、林 透 大学教育センター准教授より「山口大学AP 事業が目指す『学びの好循環』と教授学習観の深化」、大関 智史 宮崎国際大学 AP アセスメント・オフィサー(助教)より「宮崎国際大学のグローバル教育とAP 事業への取組」と題し、AP事業成果報告がありました。



特別講演ではメアリー・ディーン・ソルチネリ先生 (Senior Fellow, Institute for Teaching Excellence & Faculty Development, UMASS) より「Creating the Future of Faculty Development Across the Border」と題し、FDの定義の再確認や歴史、米国・カナダにおけるFD担当者向けの大規模調査結果が報告されるとともに、FDをエビデンスベースで進める必要性が強調されました。



後半のグローバル・ワークショップ「10年後のFDの姿を展望する～日米FD比較調査を通じたダイアログ～」では、アンドレア・L・ビーチ先生 (Professor of Higher Education Leadership, Western Michigan University) と山崎

慎一 桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群助教による日米の比較調査結果報告の後、これまでの発表内容を踏まえた上で、参加者が4人1組のグループを構成し、「日米のFDの違いに関する気づき、疑問」と「これからの日本のFDの行方」をテーマに議論が行われました。

SD・IRワークショップを開催！

平成29年3月8日(水)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP) & IR室合同企画 SD・IRワークショップ「エビデンスベースの大学経営を目指して～山口大の現状と課題を見つめながら～」が、学内職員を対象に、計36名(職員33名、教員3名)が参加し、本学吉田キャンパス事務局2号館4階第2会議室にて開催されました。サンプルデータに基づき、ノートPCでの簡単な統計操作を交えたグループワークでは、意思決定者の判断や指示を促すためには単なる基礎集計だけでなく、効果の大きさ、関連の強さといったものを示す必要性を理解しました。



学生FDサミット2017春 ～山口大学～

平成29年3月2日（木）・3日（金）に、「学生FDサミット2017春」を山口大学で開催しました。「学生FDサミット」とは、全国の大学から学生FD活動に取り組む学生・教員・職員が一堂に会し、各大学における活動や成果を発表し合い、大学教育における課題等を共有し、議論する場です。山口大学で開催される今回は、「Borderless Campus～学びのフィールドはどこにある？～」をテーマに、学びの多様性に焦点を当て、「発見し・はぐくみ・かたちにする」という活動を通して、その大学オリジナルな学生FDを考えることを目指した。山口大学 共通教育棟（吉田キャンパス）にて、参加者258名（学内39名（学生27名、教職員12名）、学外219（学生177名、教職員42名））を集めて行われました。



1日目ははじめに、奥田 真也（経済学部4年生・学生FDサミット2017春 山口大学 実行委員会代表）より開会宣言が行われました。次に岡 正朗 学長より開会挨拶があった後、学生FDの第一人者である元立命館大学教授 木野 茂 氏より今回のサミットに関する期待が述べられました。その後、学生FD第一世代トーク「とどけ、熱き心！」と題し、学生FD第一世代として活躍し、現在大学の教職員である4名（平野 優貴：法政大学キャリアセンター職員、山下 貴弘：山口大学COC+事業推進本部コーディネーター、曾根 健吾：横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター特任教員、高橋 和：名城大学学務センター職員）から、学生時代の学生FD活動を振り返りつつ、現在大学の教職員としての立場から現役学生への熱い思いが述べられました。午後は分科会セッション「山大 春の陣」と題して、下関市立大学の学生FD団体および岡山理科大学と、OUSの学生の協力を得て、山口大学を含めた3大学の分科会が行われました。

プログラム

3月2日（木）：1日目		3月3日（金）：2日目	
発見する		かたちにする	
11:00～	オープニング 〈開会宣言〉 奥田 真也 山口大学経済学部4年／ 学生FDサミット2017春 実行委員会代表 〈山口大学長あいさつ〉 岡 正朗 先生 〈学生FDの父あいさつ〉 木野 茂 先生	10:00～	グループワークセッション 「学生FDサミットのビジョンをデザインしよう！」 （12:00～13:00 ランチタイムを含む）
11:20～	学生FD第一世代トーク「とどけ、熱き心！」 山下 貴弘 山口大学COC+事業推進本部コーディネーター 平野 優貴 法政大学キャリアセンター職員 曾根 健吾 横浜国立大学高大接続・ 全学教育推進センター特任教員 高橋 和 名城大学学務センター職員	14:00～	プレゼンタイム 「未来のとびらをノックしよう！」
12:30～	ランチタイム	15:00～	休憩
はぐくむ		15:10～	クロージングセッション 〈山口大学理事・副学長あいさつ〉 福田 隆真 先生 〈開催校からのメッセージ〉 林 透 山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 〈次期開催機関あいさつ〉 〈閉会宣言〉 奥田 真也 山口大学経済学部4年／ 学生FDサミット2017春 実行委員会代表
13:30～	分科会セッション「山大 春の陣」		
18:00～	情報交換会		

学生FDサミット2017春 ～山口大学～

2日目はグループワークセッション「学生FDサミットのビジョンをデザインしよう！」と題して、前日の参加者それぞれの「学び」への考察をもとに、グループワークを行いながら、どんな学生FDサミットに参加したいのか、作り上げていくのか、そのビジョンをデザインするというワークが行われました。また午後は、プレゼンタイム「未来のとびらをノックしよう！」と題し、グループワークで考えたビジョンを発表するというワークが行われました。



クロージングセッションでは、福田 隆眞 副学長より閉会の挨拶、林 透 大学教育機構 大学教育センター准教授より開催校からの挨拶、次期開催校である金沢星稜大学から挨拶が行われました。またその際、2日目に各グループが考えたビジョンをもとに、学生FDサミットのエンブレムを創るというサプライズ演出も行われました。エンブレムのデザインには、岡山県立大学PZLの学生に多大なる協力を頂きました。最後に、奥田 真也（経済学部4年生・山口大学 学生FDサミット2017春 実行委員会代表）から閉会宣言が述べられ、終了しました。



2017 SPRING
Student - Initiated FD Summit



2017 SPRING
Student - Initiated FD Summit

学生FDサミット 協力校の感想

広島経済大学

学生FDプロジェクト 山田 僚太

今回のサミットは、私達にとってとても得るものが多いサミットになりました。というのも、昨年の12月に私達、広島経済大学が開催した宮島交流会でのつながりを大切にしてくださり、サミット1日目の分科会セッション「山大～春の陣～」のオープニングに参加させて頂いたからです。

私達はFD活動の歴も少なく、このようなサミットという大きい舞台に立ったことが無かったことからメンバー一同、良い経験になったと大変感謝しております。成長の場を頂き、ありがとうございました。合わせて感謝申し上げます。

今回のサミットのテーマは、「Borderless Campus～学びのフィールドはどこにある？」というもので、1日目は、第一世代と呼ばれる4人の先輩方の学生FDに対する思いを知ることが出来る素晴らしいセッションでした。

これまで培ってきた先人の思いを受け継ぐとともに学生FDの新しいステージへ昇華していくという思いが、サミットに参加した1人1人の胸に刻み込まれたと感じております。

またメインテーマといわれる「山大春の陣」分科会セッションでは、今は学びの多様化に伴い授業内だけでなく、学外に飛び出して学ぶ必要性があるという意見や、その反対に学びが多様になってきたからこそ授業内で学べる専門知識などをもっと大切にしていかなければいけないという意見があり、本来の学ぶことの必要性やおもしろさ、目的が再確認でき、得るものが多いサミットとなりました。

山口大学・学生FDサミット2017春で得ることの出来た、たくさんの学び、つながりを自大学に持ち帰り、自大学の向上に努めていきたいと思っております。

下関市立大学 学生FD委員会 吉長 美沙

今回下関市立大学学生FD委員会は初めて、学生FDサミットに運営側として関わることができました。分科会の時間をいただき、「学内での学び」について企画させていただきました。分科会を企画する上で、私たち自身が学内での学びについて考えを深めることができました。

企画する上で、学内で学ぶことの意義やメリット・デメリットなどについて考えた上で実際の大学生活との対比し、本当に学生が必要としている学びとは何か、また、学生がより深い学びを得ることができる方法とは何かを考えました。学生目線はもちろん、教員・職員の方にも話を聞いて、多角的に学内での学びについて時間を掛けて考えました。具体的な内容が固まった後には、どのような方法で伝えるかという点にも悩まされました。いかに参加者に楽しんで帰ってもらえるか、何か一つでも分科会に参加して得るものがあったという実感を持ち帰って欲しいと思い、グループでのディスカッションや体験授業等を行いました。参加者の方から分かりやすかったといった声を頂いた時には、分科会企画に携わることができてよかったと思いました。

今回の企画では学んだことを伝えることの難しさ、やりがいを感じる事ができました。また、私たちに足りなかった部分を見つけることができました。今回のサミットで得たことは下関市立大学学生FD委員会の今後の活動に活用し、より活発な活動を継続して行っていきたいと思っております。

岡山理科大学とり、OUS 高橋 正光

サミットに参加し続けて4年目、初めて分科会の企画というお話をいただきました。この貴重な機会を絶対に成功させる、という思いがメンバー全員の中にもありました。そのため、いつもの分科会とは少し違う、とり、OUSらしさを全面に出した分科会にしたいと考え、企画を進めてきました。メンバーの個性を出せるような司会進行を目指すため、セッションごとに司会者を変え、会場真ん中で動き回りながら司会進行を行いました。また、空間コーディネートにもこだわりました。会場前に巨大なタイトル看板を設置する、部屋中に風船を飛ばすなど、いつもの分科会と違う雰囲気を感じてもらうための工夫を心がけました。

また、今回は岡山で学外活動を行う学生の紹介を行いました。岡山では、学外で活動し活躍している学生がたくさんいる、ということ伝えるべく、一人ひとりにインタビューを行い、冊子にまとめ、みなさんにお配りしました。

そんなとり、OUSのワークセッション、みなさんの感想はいかがだったでしょうか？ワーク1の時間では、笑顔で楽しんでいる姿が見られました。その後のワーク2、岡山の学生の活動の紹介の時間では、一変して、真剣な顔で意見を交換する姿が見られました。みなさんが楽しい時間を過ごしていただき、新しい気づきがあるのであれば幸いです。





学生FDサミット 協力校の感想



岡山県立大学 学生支援団体PZL 児嶋 千恵

今回のサミットは、私たち岡山県立大学 学生支援団体PZL として初めての参加であったため、最初は不安な気持ちがありました。新団体である私たちにとっても刺激的な時間となりました。特に勉強になったのは、1日目の分科会です。私たちPZLは「学生支援団体」という肩書のもと活動しているためFD活動以外にもさまざまな活動をしています。しかしFD団体の集まりに行く毎に、私たちの活動は学生FD活動といえるのかという不安がありました。しかし、今回フィールドごとの良さを分かったからこそ、他大学の真似をしなくて良いという自信ができました。

また、サミット初参加にもかかわらず、サミットのエンブレム作成に関わらせていただき、ありがとうございます。年に2回全国の学生FD団体が集まる会のため、納得のいくデザインをしたいと思い、サミット前日まで山口大学代表の奥田さんと共に話し合いを重ねて制作しました。エンブレムの形はもちろん、色・手の角度・線の太さまでにもこだわったため、完成したエンブレムがお披露目された時、なんとも言えない達成感を味わいました。正直、準備期間が短く体力的にも精神的にもつらいことがありましたが、このような体験はなかなかできないことであり、自身のスキルアップにも直結したと思います。

デザインのコンセプトにもあるように、大学同士の繋がりによって制作されたこのエンブレムが、2017夏、2018春・・・とサミットに参加する多くの方々のみていただけると嬉しいです。

広島経済大学 興動館 学生FDプロジェクト主催 「宮島交流会～繋ぐ学生FDの輪～」 参加レポート

平成28年12月3日（土）・4日（日）の2日間、広島経済大学 興動館 学生FDプロジェクト主催「宮島交流会～繋ぐ学生FDの輪～」に、YC.CAMメンバー3名（学生2名、教員1名）が参加しました。広島県宮島にある広島経済大学セミナーハウス成風館に、中国地区7大学、60名近くの学生・教職員が集まりました。初日はゲーム形式のアイスブレイキングで心を解したのち、宮島の観光地をフィールドとしたウォーキング・ラリーでさらに体を解し、グループ活動を楽しみました。その後、各大学の学生FD活動報告を行い、本学のYC.CAMメンバーも学生FDサミット2017春への協力をアピールしました。2日目にはしゃべり場を通して、お互いの活動を深く理解しあいました。本学にとっては、その後に開催された学生FDサミット2017春の協力連携を構築する絶好の機会となり、広島経済大学の関係者の皆さまには感謝申し上げたいと思います。



島根県・江津地区訪問レポート

平成28年11月23日（祝・水）、島根県に地方創生まちづくり
に勤しむ学生がいるとの情報を聞きつけた私たちは、島根県江津
市に向かいました。山口でも昨今、声高に叫ばれる「地域創生」。
最近でいえば、COC+事業本部渾身のイベント「jobフェア」がみな
さんの記憶に新しいのではないのでしょうか。島根石見地区で地域創
生を目的に開催される大イベント「いわみん」。今回はそのなかの一
つ、『三江線に乗って江津本町へ行こう』にて私たちY.C.CAMは
島根県立大学生との交流を図りました。

日本最高の赤字鉄道と名高い三江線(?)。その三江線とJR山
陽本線に囲まれた街、江津本町。高齢化が進みすぎて「日本の
10年後をいく街」としても知られるこの江津本町で、私たちはまちづ
くりで奮闘する島根県立大学三年生竹内聖太郎さんとの話し合
いの機会を設けていただきました。



竹内さんは一年生の頃から、すでに出来上がっている地域コミュニ
ティーの中に入り込む時間を費やし、地域の方達と触れ合いながらも
江津本町の問題に向き合い、改善する努力をして来ました。住民の
大半が高齢者な中で、まちづくりに勤しむ若者は竹内さん一人。そん
な状況でも地域の方と連携することで、江津本町は日に日に明る
くなって来たそうです。私たちが竹内さんにガイドをしていただき、江津本
町を散策しました。江津の赤瓦や空き家家をリニューアルしたというおしゃ
れなカフェ、地域の力により発掘され当時の姿を取り戻しつつ二楽閣
など。街の魅力はもちろんのこと、その中に竹内さんのまちづくりに対する
真摯な姿勢が見えました。

(国際総合科学部2年 増田雅也)

やまぐち探訪記 第七回 (山口市大殿)

山口市中心部は、江戸時代の頃から山口講堂、その後の山口明倫館に始まり、
旧制・山口高等学校、さらには、山口大学がキャンパスを構え、文教都市の面影を漂
わせていました。その後、山口大学が現在の吉田キャンパスに総合移転し、現在で
は、文教都市の面影は薄れ、大学生が日常的にまちに集う姿はあまり見られなくな
りました。「学都やまぐち」という言葉を今一度
体現するには、学生が集うまちづくりのため
の検討を学生とともに考えていく必要がある
でしょう。



一の坂川が横切る大殿地区は、大内氏の菩提寺である龍福寺、幕末維新の
舞台となった十朋亭のほか、山口大学ゆかりの創基の地、山口明倫館や山口高
等中学校の石碑など、散策するには絶好のエリアです。また、経済学部同窓会
「鳳陽会」の建物がこの地に居を構えていることも確かめておきたいものです。一の
坂川周辺の喫茶でくつろぎながら、山口の歴史、山口大学の歴史を堪能してみ
てはいかがでしょうか。やまぐちの探訪の旅はまだまだ続きます。



学生スタッフ募集!



オン・キャンパスでジョブ
オフ・キャンパスでチャレンジ



大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

Our Works!

共育ワークショップ

山口大学の教育(共育)について
学生・教職員が一体となり共にはぐむ場
年に一回開催!



共育の丘だより

大学教育センターでの
活動や広報のため
年に二回発行!



山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP)推進事業

2014年秋に採択された全学を挙げての事業
学生・教職員が協働して推進!



SLPの開発

Student Leader Program
リーダーシップ養成
学習相談会(ピア・サポート)
キャリア学習会(就業力支援)...



学生向けの
新・正課外教育プログラムを
教職学協働で創造!

学生FDサミット

全国を飛び回って大活躍中!!



オン・キャンパスでジョブ
学修到達テストの補助業務
学内企画イベントの補助業務
オフ・キャンパスでチャレンジ
学生FDサミットに参加して他流試合
山口市・長門市・周防大島などでの体験学習

Contact!

YU-AP推進室
TEL:083-933-5261
E-mail:yuap@yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

この春よりこちらでお世話になることになり、共育の丘だよりの編集に携われていただくことになりました。まだまだわからないことが多いですが、編集を通じて学生FDサミットなどの共育の活動を知ることができ、私も早く学生や教職員の皆様の発展の力になりたいと思いました。最後に編集作業・記事作成にご協力いただきました方々には感謝申し上げます。

(教育企画係 伊藤千恵美)

編集チーム

林 透

(大学教育センター准教授)

伊藤 千恵美

(教育企画係)

学生メンバー

矢田 萌佳

(人文学部4年)

香川 万由子

(経済学部3年)

廣本 明日香

(人文学部2年)

堀井 さやか

(人文学部2年)

岡 寛範

(経済学部2年)

川田 海菜

(経済学部2年)

大谷 有紀

(農学部2年)

高松 風果

(農学部2年)

増田 雅也

(国際総合科学部2年)

発行:

大学教育センター

(2017年5月31日 発行)

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます